

DXPの「どうするDX」《概要版》

情報メディア・コンテンツ産業のDX

出版・放送・映像・ゲーム業界における「デジタル前提」への構造転換と戦略的展望

株式会社DXパートナーズ

2026年1月14日



2026年版レポート概要

本レポートは、2025年12月から2026年1月にかけての情報メディア・コンテンツ産業における劇的な市場環境の変化を分析します。生成AI技術が実験段階を超え、実ビジネスの根幹を揺るがす「実戦配備」フェーズへと移行した歴史的転換点を記録しています。

従来の「アナログ前提」ビジネスモデルでのAI適用が深刻な摩擦を引き起こす一方、「デジタル前提」の事例が全く新しい顧客価値と市場を創出し始めています。





顧客価値創造エンジンの進化



自然吸気エンジン

アナログ時代のリニアなプロセス。交換・知覚・使用価値の3つに限定。



ツインターボエンジン

AIとネットワーク効果による高速化。体験・共感価値を含む5つの価値を提供。

2026年の勝者は「ツインターボ顧客価値創造エンジン」を実装した企業です。高速・高頻度なりニアプロセスと、ノンリニアなネットワーク効果の2つのターボチャージャーで駆動されます。

デジタル影響の3階層

置換(Substitution)

既存プロセスをAIに置き換え。コスト削減を目指す。共感価値を毀損するリスクが高い。

活用(Utilization)

既存モデルを維持しつつ、AIで付加価値を高める。リニアな価値創造の強化。

前提(Premise)

AIとネットワーク効果が事業の核。ノンリニアな価値創造で既存ルールを破壊。

置換の失敗事例:Amazon Prime Video



AI吹き替えの撤回

2025年12月、Amazon Prime Videoは人気アニメにAI吹き替えを導入しましたが、視聴者の激しい反発により即座に撤回されました。

- 感情表現に乏しいロボット的な音声
- 作品の文脈を無視した演技
- 声優の演技=共感価値の核を毀損

❏ 教訓: 効率性は「感動」の代替にはなり得ません。顧客価値の本質を見誤ると致命的な反発を招きます。



業界全体の構造変化

17K+ 18% 50...

雇用削減

2025年にメディア業界で削減された雇用数。AIへの投資シフトが加速。

増加率

前年比での人員削減の増加率。防衛的な縮小均衡が進行中。

テック業界全体

2025年のテクノロジー業界全体でのAI関連レイオフ総数。

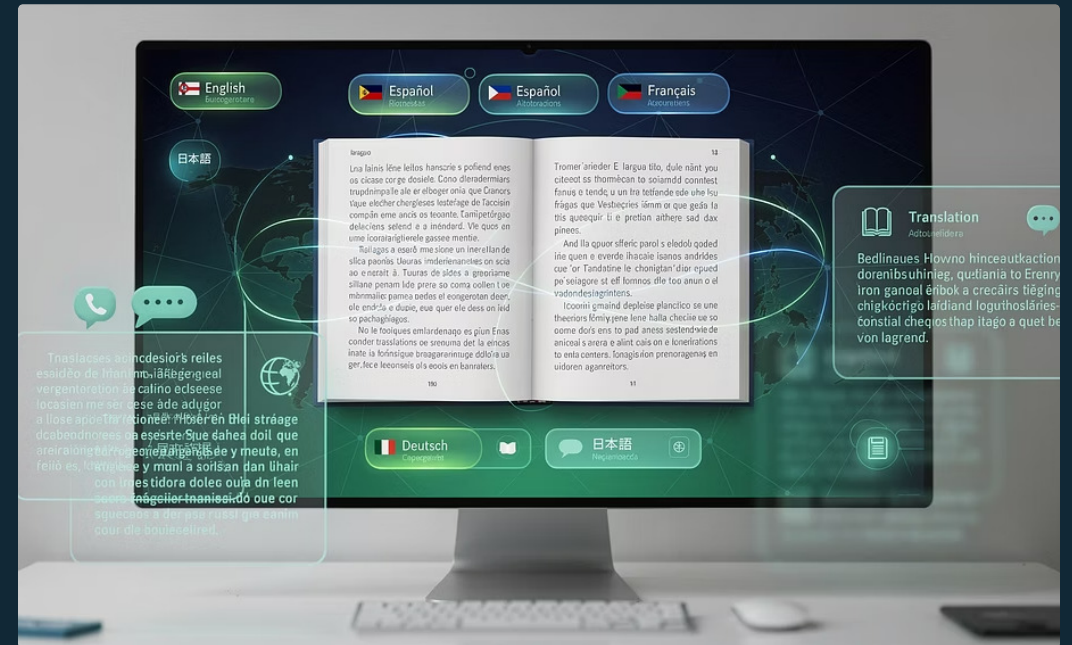
活用事例:ゲーム開発の効率化



Shift Up

『Stellar Blade』開発元。中国の「人海戦術(1,000人規模)」に対抗するため、AIで効率化を推進。AAA級クオリティを少人数で実現。

これらは「ターボチャージャー1」の実装例です。制作工程を加速させ、使用価値の提供範囲を拡大しています。



Kadokawa

AI翻訳システムでライトノベル・マンガを迅速に多言語展開。言語の壁を撤廃し、グローバル市場へ。

前提事例:ルールチェンジの実現者たち



SeaVerse

世界初のAIネイティブ制作プラットフォーム。プロンプトからゲーム・映像を即座に生成し公開。創造の民主化を実現。



Channel 1

AIエージェント活用のニュースネットワーク。視聴者ごとにパーソナライズされた情報を生成・配信。



Krafton

「AIファースト」企業へ転換。Virtual Friendで記憶と推論能力を持つNPCを実現し、長期的関係を構築。



2026年以降の予測

エージェント・メディアの到来

AIエージェントがメディア消費を主導。ユーザーは自分のAIに指示し、最適なコンテンツを受け取る時代へ。

1

2

コンテンツの二極化

真正なヒューマンコンテンツはプレミアム化。パーソナライズドAIコンテンツはサブスク化。低品質AIは収益化困難に。

3

組織の中空化

AIエージェントが調整・管理業務を代替。少数の意思決定者とAI群によるフラットな組織へ。

4

日本独自の文化的AI

著作権保護とクリエイター尊重の文化を背景に、安心・安全で高品質な日本発AIエコシステムが形成。

経営層への戦略的提言

1

エンジンのレトロフィット

安易なAI置換を停止し、共感価値に関わる部分での品質・倫理面のクリアランスを確保。権利関係を明確化し、透明性で信頼を守る。

2

ツインターボの実装

Agentic AIで非クリエイティブ業務を自動化。AIを「下働き」として使い、人間が「魂を入れる」ハイブリッド制作体制を構築。

3

ブルーオーシャンの創造

製品売り切りから「場」と「関係性」の提供へシフト。対話型サービスを開発し、データを資産化して自社特化型AIモデルを構築。

2026年は「デジタル前提」への転換を果たすラストチャンスです。AIを新しい価値創造のパートナーとして使い、ツインターボエンジンでノンリニアな成長曲線を描くことが、経営者に求められる唯一の解です。